

新型ホームドアの技術開発と実用化について

タイプ名	昇降ロープ式ホーム柵(支柱伸縮型)	昇降ロープ式ホームドア	昇降バー式ホーム柵	戸袋移動型ホーム柵
外観写真等				
開発主体	(株)JR西日本テクシア	日本信号(株)	(株)高見沢サイバネティックス	(株)京三製作所(株)神戸製鋼所
概要	開口部が昇降する5本のロープで構成されており、開口幅を大きくとることが可能。視認性向上のため、支柱が伸縮型となっている。	開口部が24本のロープ(ワイヤ)で構成されており、開口幅を大きくとることが可能。	開口部が3本のバーで構成されており、開口幅を大きくとることが可能。	車両のドア位置に応じてホームドア(戸袋)が移動することで、ホームドアの開く位置を変更可能。
実用化への動き	【実用化】 JR西日本 六甲道駅(H27年4月～)及び高槻駅(H28年3月～)において設置済み。今後、三ノ宮駅及び京都駅に設置予定。	【実証実験】 H25年10月～H26年9月 東急電鉄 つきみ野駅 【実用化】 近鉄 大阪阿部野橋駅において、平成29年度に一部試験設置により検証のうえ、H30年度目途に本設置を予定。	【実証実験】 H25年10月～H26年10月 相模鉄道 弥生台駅 【試行導入】 H27年3月～ JR東日本 拝島駅 現在、視認性改良型の実証実験について検討中。	【実証実験】 H25年8月～H26年2月 西武鉄道 新所沢駅
タイプ名	マルチドア対応ホームドア	スマートホームドア®	大開口ホーム柵	軽量型ホームドア
外観写真等				
開発主体	三菱重工交通機器エンジニアリング(株)	JR東日本メカトロニクス(株)	ナブテスコ(株)	日本信号(株)・(株)音楽館
概要	車両のドア位置に応じてホームドアの開く位置を変更可能。	ドア部をフレーム構造として軽量・簡素化などを図り、本体機器費用、設置工事費用等を低減。	通常の横開きタイプのドア部を2重引き戸構造とし、開口幅を大きくとることが可能。	重量を従来型ホームドアの半分程度まで軽量化し、ホームの補強工事や設置工事費用を低減。
実用化への動き	【実証実験】 H28年10月～ 京急電鉄 三浦海岸駅	【試行導入】 H28年12月～ JR東日本 町田駅	【実証実験】 H28年3月～ 東京メトロ 九段下駅	【実証試験】 平成29年秋以降 JR九州 九大学研都市駅